

令和3年3月19日

三島座長、川島・益戸副座長、委員各位  
独立行政法人大学入試センター 山本理事長  
事務局各位

## 第1回大学入学共通テストの評価の報告について（意見）

日本大学文理学部  
教授 末富 芳

標記の件につきましては、昨日（3月18日）の会議でも申し上げ、山本理事長からはこれまでよりは前向きなご答弁を頂きましたが、口頭であったため伝わりにくかったことであろうかと思えます。

議事録の確定にも時間を要することが想定されますので、念のため、改めて書面で懸念を述べさせていただきます。

- 2月17日、3月4日の会議においても、「第1回共通テストについての一定の評価を経ないで結論を出すことはあり得ない」と申し上げ、特段他の委員からも異論がなかったところですが、「主な意見」に盛り込まれていませんでした。
- センターのHPを拝見したところ、過去の評価報告は3月に出ており、なぜ今回だけ6月までかかるのか、十分な説明がされておらず個人として理解に苦しむだけでなく、オンライン視聴している報道関係者や高校関係者含め納得できていない可能性は高いと考えます。コロナで対面の会議ができないということでしたが、オンライン会議はむしろ設定しやすくなっているのが実情です。
- 「共通テストのあり方」が極めて重要な位置を占める「大学入試のあり方」を検討し、結論を出すことが本検討会議のミッションである以上、本来であれば、第1回の評価結果が完全な形で報告されて然るべきところですが、昨日の山本理事長のご説明では「外部からの意見はほぼ取りまとまっている」とのことでしたので、最低でもそれらの外部意見については、包み隠さず早期に本検討会議にご報告頂くことを強く要望致します。
- 「センター試験の総括をしないでセンター試験の廃止を許してしまったこと」に象徴される「客観的に見ても杜撰としかいいようのない議論」が今回の大混乱を招いたことについては、センターの関係者も、心ある文部科学省事務局の関係者も忸怩たる思いを抱いておられることと推察いたします。

- 特に、英語 4 技能評価については、民間検定を活用することを前提にして、語句整序問題や発音・アクセント問題などが削除されたことは明らかです（第 7 回・南風原氏提出資料 pp.7-8 参照）。平成 31 年の問題作成部会の見解（大学入試センター・試験問題評価委員会報告書）でも、「筆記試験で発音やアクセントを問うことの意義は、スピーキング技能につながる基礎的な音声的知識を見ることにある。」「与えられた英文を完成するのにふさわしい語句を選ばせることにより、語彙、文法及び語法の知識を測定する。」「文脈を与えた上で、単語の整序を考えさせることにより、意図された意味になるような英文を構成する能力を測定する。」などとあります（南風原氏資料 p.11 参照）。いわば旧センター試験は 4 技能試験であったとも言えるわけですが、英語成績提供システムの見送りに伴って、2 技能試験にレベルダウンしてしまったとの批判もあると承知しています。私は英語教育の専門家ではありませんが、こうした大きな変更に対する評価をすることなく、4 技能評価について説得力ある結論を出せるようには思えません。
- 仮に、第 1 回共通テストの評価を全く行うことなく、令和 6 年度実施の入試のあり方を決めるというようなことをしたら、3 月 4 日の会議において議論し、一定の合意に至っている「望ましい意思決定のあり方」に我々自身が反してしまうのではないのでしょうか。折角丁寧な議論を重ねてきた本検討会議のプロセスに大きな瑕疵が残り、将来に大きな禍根を残すことになるのではないかと強く懸念を致します。